

学生が図書館に行く時

図書館長 村上 登司文

私にとって図書館との本格的なつきあいは、大学生になってからであった。しかし大学生当時、図書館は講義の合間、また夕方の部活動の時間まで雑誌や本を読む「時間つぶし」の場であり、机にうつ伏せてよく寝た思い出もある。4回生の時の図書館は、教員採用試験や大学院入試のために、気合いを入れて短期集中で受験勉強ができる場であった。

大学院に入り研究者の卵となって以降、図書館は研究資料の探索の場となった。国内外の多くの図書館や資料室にお世話になった。記憶に残るものとして、筑波大学図書館の広大な書庫、防衛庁(当時)図書館の秘密めいた軍事資料、日本教育会館の教育図書館における多量の全国集会報告書、そして英国ブラッドフォード大学と米国コロンビア大学である。

ブラッドフォード大学に1986年に留学した時、レポートを書くために朝から夕方まで大学図書館にこもる日々が数ヶ月続いた。図書館では多くの書籍や資料が、当時すでにコンピュータで管理されていた。薄い冊子も集めてボックスに入れて登録され、ニュースレターも綴られて、研究資料として活用するのに大いに役立った。2001年の米国コロンビア大学図書館には、中国人の多くの学生が勉学し、図書館助手としても働いており、中国人がアカデミックな世界で活躍することを予見させた。

大学生協の2016年における調査結果によれば、大学生の1日の読書時間は平均24分であるが、

スマートフォン利用時間は平均161分である。書籍購入費(自宅生)は月額1,450円にすぎず、1冊本を買えば無くなってしまふ。「卒論研究で本にお金をかけない」といった学生がいた。卒論生がネットで論文を調べるとき、CiNiiで本文がダウンロードできる文献にしか興味がなく、郵送費やコピー代がかかる「論文の取り寄せ」は考慮の対象から外れる。学生達はスマホやPCを活用し、情報収集術に長けているが、本の購入にお金をほとんどかけない。

そんな教育大生ではあるが、幸いなことに本学の図書館では貸出数は増えていないが減ってもいなく、入館者数は増えている。これは、図書館が本を借りる場や勉強する場だけでなく、研究情報を集める場(インフォメーション・コモンズ)、そして学習のために集う場(ラーニング・コモンズ)、また居心地のよい場を目指しているからであろう。

大学は、未来を準備する知識の創造の場である。本学は、学生達が教育現場の多様な教育的課題を認識し、その課題解決に向けて主体的に協働的に取り組む力を養成する。一人でも多くの学生が図書館を訪れ、未来の教育現場で出会う教育課題を予測し、必要な情報を求め、仲間と協働で課題解決を行う「学ぶ力」の養成を支援したい。同時に、図書館では、学生と院生、教職員、地域住民のより多くの方が入館し、使いやすいと思う図書館の在り方を求めている。

読書キャンペーン館長賞決定！

2016年10月から2017年2月まで実施された「わくわく Kyo2 ライブラリー 読書キャンペーン」の館長賞等が決定され、受賞者には表彰状と図書カードが贈られました。今回は、館長賞1名（図書カード3000円分）、優秀賞1名（図書カード1000円分）、わくわくライブラリー賞4名（図書カード500円分）の計6名の方が選ばれました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。残念だった方には、次回のチャレンジを期待しています。

館長賞！

林岳志さん

『響け！ユーフォニアム：
北宇治高校吹奏楽部へようこそ』

まさか賞を、しかも館長賞をいただけると思っていなかったで、報告をいただいたときは驚きました。いい本に出会えた結果だと思います。大学生活の最後、いい記念になりました。大学院へ進学するので、記念品の図書カードは、教科書の購入費の方に充てたいと思います。



～講評～

図書館活性化プロジェクトの一環として、昨年度に引き続き今年度も「読書キャンペーン」を行った。

本好きな人からまわりの人に読書を薦めてほしいということで「読後感想文」の募集を行ったところ、今年度は37件の応募があった。昨年度に比べるとやや減ったが、大学生の読書離れが憂慮されている中、多様なジャンルの本に関する書評があったことはうれしい限りである。

今回は文字数が400字程度と昨年よりやや短くなったため、まとめるのが難しかったかも知れない。本の概要やエッセンスを簡潔にまとめながら、読んだ自分の想いを書評を通して伝え、まわりの人にその本を薦めるのがこのコーナーである。薦めるといっても決して押しつけにならず、自然に読みたくなる書評がいい。

今回応募の中から図書館職員全員による1次選考を行い10件に絞り、そのなかから館長賞1件、優秀賞1件、わくわくライブラリー賞4件を選んだ。

『響け！ユーフォニアム：北宇治高校吹奏楽部へようこそ』は、本の概要を自分が受けた気持ちに沿って紹介し、その中でこの本を読んで自分が一番考えさせられた点を一つ伝えている。自分も読んでみたいと思わせる書評である。

『自分の顔が好きですか？－「顔」の心理学』は、タイトルにひかれて手にとった本から、いろいろな見方をすることの面白さを伝えている。

わくわくライブラリー賞の作品もそれ以外のものも本を読んでみたくなる書評が多くあった。ただ、概要を書いているだけでは誰が書いても同じだし、かといって読んだ気持ちのみ書かれると肝心の内容が伝わらない。両方が伝わるようにまとめるのはやはり文章力が必要である。

このキャンペーンを通して学生の皆さんにはぜひ読書好きになってほしい。ネット社会の中で埋もれてしまいそうな「読書」であるが、自分を研鑽するにはとても大切な「読書」なのである。

平成29年3月

沖花 彰 (前附属図書館長)

優秀賞

山西咲彩さん

『自分の顔が好きですか？－「顔」の心理学』

今回、優秀賞に選んでいただき、大変嬉しく思います。京都教育大学の図書館にはたくさんの方の本がそろっています。大学生という時間がたくさんある今に、本をもっともっと読みましょう！いろいろな世界が知れることは面白いですよ！



わくわくライブラリー賞

金子遥さん

『教科書が教えない歴史』

2年連続でいただいた賞で、ありがたい限りです。昔から読書感想文は得意ではないですが、のままにして中・高と過ごしてしまいました。大学生になって機会を見つけ、それに挑戦したことで、その結果としてもらったこの賞は、自分の今までのモヤモヤを取り払ってくれるようなものになりました。

山中晴登さん

『光と電磁気：ファラデーとマクスウェルが考えたこと：電場とは何か？磁場とは何か？』

このような賞をいただき本当に嬉しく思います。学校で学習する公式や内容に留まらずに、その公式が生まれた背景、発見した人物やその時代の特色などにも興味を持つと、普段の何の面白みのない文字列から様々な背景が浮かび上がってくると思います。この本を通して、またそれ以外の本からでも教科書には載っていない理科の内容、科学の大発見の裏側をぜひともものさそいでみて下さい。そして理科のおもしろさが読んだ皆様に伝わればとても嬉しいです。

湯峯美幸さん

『ねじ式/夜が掴む』

意外でした。この際だからと誰も読まないような妙にマニアックな本でコメントを書いたので、嬉しくもあり、自分だけが知っている希少感が薄れて寂しくもあります。

吉田高徹さん

『日本会議の正体』

特別支援教育特別専攻科での学びの期間はわずか1年。その限られた時間の中で、できる限りのジャンルを問わず広く学びたいと思い、附属図書館でも様々な書に触れる機会を得ました。自分の書いた文章を載せていただけるということはたいへん光栄です。京都教育大学に、そして、附属図書館に“ありがとう”を伝えたいです。

OPEN!

新コーナー「グローバルスクエア」

「お手軽に英語を身につけたい！」

そんなみなさんのために新しい部屋をご用意しました♪
北館2階にあるこの部屋には、英語力向上に役立つ多読本をはじめ、TOEICなどの英語検定本、英字新聞、さらに洋画や日本の人気漫画・小説の英訳版まで色々取り揃えています。そして、居るだけで英語に触れられるように、60インチの大型ディスプレイでは常に英語でニュースが流れています。

同時に英語学習のための電子書籍も購入したので是非ご利用ください！

(学内外からアクセス可)



京都府立図書館と相互協力に関する協定締結!

当館と京都府立図書館は、平成29年3月29日付けで相互協力に関する協定を締結しました。この協定により当館と府立図書館及び府内市町村立図書館・読書施設等が所蔵する図書館資料の相互貸借が可能となります。

※ 府立図書館等の資料の借り方については、カウンターにおたずねください。



協定を締結した沖花彰 前図書館長(右)と丸川修 京都府立図書館長

図書館ツアーや講習会に参加しよう!

【開催日】4月3日(月)~14日(金) (平日のみ、7,11日休)
【時間】12:00~12:20 (オプション有+10分)
【集合場所】附属図書館カウンター
【申込方法】希望日時、所属、氏名を明記の上 library@kyokyo-u.ac.jp まで
(当日参加希望は、5分前までにカウンターへ!)
詳細は、ホームページやポスターで!

学修相談カウンター 4月もあります!

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか? どんどん利用してください! お気軽に!
【場所】北館2階ラーニングコモンズ
【時間】16:30~19:30の該当時間



リクエストと投票で話題の本を読もう!

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています!
・学習研究目的のものは原則として購入します。
・学習研究以外の目的のものは、毎月10日までに受付した分を15日~月末に館内で投票し、票の多かった本を購入します。結果によっては購入できないこともあります。リクエストや投票にどんどん参加してください!

読みたい本に投票しよう!(1日1ポイントまで)

※ 4月の投票期間は
4月14日(金)~4月28日(金)
※ 図書館1階渡り廊下と北館2階研修セミナー室前に掲示。
リクエストは随時受付中です
※ リクエスト方法については、館内掲示をご覧ください。

企画展示室(北館1階)

追悼展 土倉亮一名誉教授 「小さな花と実」によせて

土倉亮一名誉教授(京都教育大学理学科)は、小さな花や実などを実体顕微鏡で拡大し、植物の精巧な作りや優美な色彩を感じ取れる写真を撮影しており、京都教育大学附属図書館において3回にわたり写真展を開催しました。また、この写真展をきっかけに晩年は植物画の制作を始められ、多くの小さな花や実を描かれていました。今回はそれらの植物画を中心に、小さくも美しい植物の世界を楽しめる展示となっています。

【会期】3月24日(金)~5月10日(水)
※附属図書館の開館日・時間に準じます

第28回うたとおはなしの会

【日時】2017年4月29日(土・祝) 10:30~11:30
【場所】附属図書館北館2階 研修セミナー室1
【定員】130名(事前申込要、先着順)
うたとおはなしの会は、今回も春を満喫できるうたやおはなしをたくさんご用意しています。大好評の人形劇は「おだんごばん」を上演予定です。

えほんのもり (場所: 児童書コーナー)

今月は「第28回うたとおはなしの会」を開催しますので、「読み聞かせの会」はおやすみです。次回は、5月の予定です。お楽しみに!



教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品「足踏み式オルガン」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示をしていますので、ぜひミュージアムへ来てくださいね!



詳しくは...教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>

今回の執筆者 Andrew Obermeier (英文学科 准教授)

What Can We Learn By Comparing Teacher Training in Japan and England?

Andrew Obermeier, Mitsuharu Mizuyama, Kaoru Nishii, Tadayuki Murakami,
Bulletin of Kyoto Univ. of Education 2016, No.129, pp.79-92.

This research project was begun by two professors, one British and one Japanese. The Japanese professor works at Kyoto University of Education. The British professor works at Oxford Brookes University. They both work to train university students to become elementary, junior high, and high school teachers. Both professors are interested in guiding teachers how to independently improve their teaching for the rest of their lives. To do this, it's important for young teachers to develop their own teaching minds and teaching hearts by investigating their own lessons. *Reflective practice* is a process that teaching professionals use to do this. By focussing on the differences between teacher training in England and Japan, these professors began to investigate the process of guiding the development reflective practice as a research project.

In order to better understand their different teacher training systems, the professors formed research teams in Kyoto and Oxford and visited each other's universities to compare the two systems and to observe practice teaching. In the first year of the project, a team of 6 researchers from Kyoto visited Oxford Brookes University. In the second year, 3 researchers from Oxford made a similar research visit to Kyoto. Now, the project has continued for 5 years. Kyoto teams have visited Oxford 4 times and Oxford teams have visited Kyoto twice. This research has shown that these two systems are especially different in two ways. First, while the number of teacher trainees who practice teaching in a classroom is only 1 in Oxford, in Kyoto there are usually from 3 to 8 teacher trainees in one class. In other words, in Oxford, teacher training is done on an individual basis but in Kyoto it's done as a group. Second, while teacher trainees in Oxford teach over 100 full days during 3 years for their practice teaching, teacher trainees in Kyoto spend only about 5 weeks during 1 year, teaching only a few classes during that period.

Despite these differences, both universities develop great teachers by guiding them to reflect on their lessons. Investigating the differences has been valuable for both the Kyoto and Oxford research teams.

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 129 号に掲載されています。

※京都教育大学リポトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2017年4月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

4/12 前期授業開始

2017年5月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ (QRコード)

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.199(2017年4月号)

発行日:平成29年4月3日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp